主題：社会福祉哲学とスピリチュアリティ

○　同志社大学　　木原活信（会員番号 1851）

キーワード：社会福祉哲学、スピリチュアリティ、Edward Canda

１．研 究 目 的

社会福祉における「価値」を中心的課題とする「社会福祉哲学」の意義と枠組と内容を明確にし、社会福祉実践を支えていこうとするのが、本セッション全体の目的であるが、その際、本報告で明らかにするスピリチュアリティの議論も重要な概念の一つとなる。なぜなら、社会福祉哲学を構想するうえで、重要な要素の一つは人間存在をどう規定するのか、特に社会のなかでそれをどのように規定し、位置づけるのか、という課題であるからである。本報告ではこの課題を国内外の文献をもとに整理することを通して、そこでの研究課題を明らかする。まずここでは、議論の前提となるスピリチュアリティの定義を議論し、その概念の国際的動向を整理し、社会福祉学（ソーシャルワーク）との関連で位置づけていく。そのことを通して、社会福祉哲学とスピリチュアリティの関係について明示する。

２．研究の視点および方法

本報告は基本的に文献研究を中心にすすめていく。スピリチュアリティと社会福祉哲学の議論の動向について、社会福祉学とその他領域での議論の差異を踏まえ考察する。まず Genii 検索によるキーワードを抽出した上でのクロス検索により国内の議論を整理する。またスピリチュアリティにかんする諸定義および国際動向を踏まえた論点を明らかにする。その際、避けることができない先行研究として以下の二つを検討する。一つはこの領域の世界的な権威である Edward R. Canda の研究。彼の著作、論文にみられる社会福祉哲学とスピリチュアリティの関係を議論する。またもう一つはスピリチュアリティ議論において注目を集めている神学者である Henri Nouwen の福祉思想について検討する。

３．倫理的配慮

本報告は、臨床的見解を含んでいないのでプライバシーの侵害等についての問題はないが、日本社会福祉学会の倫理綱領に基づき文献研究を着実すすめるものとする。

４．研 究 結 果

４－１　文献考察結果

検索方式 Genii　検索日付 2013/05/11

	CiNii	*WebcatPlus*	*KAKEN*	*NII-DBR*	*JAIRO*
スピリチュアリティ	416	151	57	9	40
社会福祉哲学	7	１０	0	1	1
福祉哲学	３９	２８	3	2	7
スピリチュアリティ＊福祉	４５	１５	３７	１２	１２
スピリチュアリティ＊看護	８４	１７	４７	6	１２
スピリチュアリティ＊医療	９８	３０	５２	7	１３
スピリチュアリティ＊社会	149	74	８９	４０	２７
スピリチュアリティ＊哲学	２１	２４	３６	2	8

公共哲学＊福祉	４９	２１	５４	３	38

４－２　定義をめぐる動向および論点の整理

1989 年に開催された第 101 回 WHO の理事会(Executive Board)において、従来の定義「physical, mental, and social well-being」に「spiritual」を加えようとする見直し案が提案されたことは周知の通りである。それは"Health is a dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely, the absence of disease or infirmity."という画期的なものであった(従来の定義"Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity")。実際、この提案は理事会で総会提案とすることが賛成２２反対０棄権８で採択された。ただし、この結果が大きく報道されたことで、健康定義がすでに改正されたと誤解されているが、その後の総会では、審議の緊急性が低いなどの理由で、審議入りしないまま見送りとなっており、未だ現行定義のとおりである。しかしこれを機に厚生労働省も spiritual の訳語をどうするのかの議論がはじまった。日本 WHO 協会が「日本語では、mental も spiritual も同じく精神的と訳してしまいそうになるのは、宗教に希薄な国民性のため」(日本 WHO 協会：http://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html,2013.5.14)である率直に認めるように、日本と宗教の問題を内包している点では課題が残る。

４－３ Canda の定義

Candaの定義「人間の実在の普遍的、根源的意味にかかわり、それは、意味や目的、そして自己と他者と絶対者にかかわる道徳的な枠組みの探求である。この意味において、スピリチュアリティは、宗教的な様式を表現しているが、一方で、宗教から独立したものとしても理解されうる。宗教とは、スピリチュアルなことがらにかかわる信仰、行為、経験の制度化されたパターンであり、それはあるコミュニティによって共有化され、時間をかけて浸透していったものである。」(Canda &Furman, 1999: 37)

４－４　Nouwen の論点

Nouwen の「創造的弱さ」は強さが砕かれるという「スピリチュアルな生」であり、現代社会の強さに対抗する可能性を有しており、専門職の社会福祉実践に批判的な対抗軸となる視点をもつ。「弱さの情報公開」など、「弱さ」を基盤にする「べてるの家」の実践には、このナウエンの思想と共通の論点がみられる。

5. 考 察

社会福祉学のあらゆる領域、例えば、高齢者施設の死、児童養護における子どもの真実告知、中途障害者の障害受容などの領域において、上記のスピリチュアリティの議論は社会福祉と密接な関係がある。そして社会福祉哲学を抽象的議論から人間全体のホリスティックな議論として成り立たせるものとしてスピリチュアリティの論点は不可欠である。

参考文献

Canda, E. R.& Furman, L. D. (2009) *Spiritual Diversity in Social Work Practice: The Heart of Helping* .Oxford University Press

Nouwen, Henri (1979) *The Wounded Healer: Ministry in Contemporary Society*. Doubleday.

木原活信(2003)『対人援助の福祉エートス―ソーシャルワークの原理とスピリチュアリティ―』ミネルヴァ書房

木原活信(2004)「ヘンリ・ナウエンの福祉思想―スピリチュアリティと「創造的弱さ」をめぐって」『キリスト教社会福祉学研究』35 号

*本研究は、科研費基盤研究(C)「社会福祉における宗教性(スピリチュアリティ)の国際比較研究」(研究課題番号：23530786)の助成によっている。